

平成31年度学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	国際社会に目を向け、地域に貢献し、社会で活躍できる人材を育成する学校
--------	------------------------------------

重点目標	1 主体的な学びにより、学習習慣を根付かせ、基礎学力の確実な定着を図り、学力向上に取り組ませる。 2 組織的計画的なキャリア教育により、目標の実現に向け努力を継続させる力を身につけ、行きたい進路の実現に挑戦させる。 3 活力ある学校生活により、責任感、社会性、主体性、協調性を涵養し、心身の健やかな成長を図り、目標を達成する経験を積ませる。 4 効果的に地域・保護者と連携し、協働をすすめながら、各種教育活動に取り組む。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<ul style="list-style-type: none"> 場面に応じたアクティブ・ラーニングの授業実践は進んできた。さらに生徒の実態に応じた効果的な授業改善を進め、学力の向上を図りたい。また、各教室にプロジェクトが設置され、タブレットも配置された。ICTを活用し、効果的な授業も実践していきたい。 考査前以外の家庭学習時間は伸び悩んでいる。週末課題の取組状況も低調で、見直しが必要である。朝学習は定着してきたので、指導内容を可視化し、一人一人に応じた学習指導を確立させ、基礎学力の定着を図りたい。 	①授業改善の効果はあったか ②個に応じた学習指導の成果は得られたか	①タブレット活用プロジェクトメンバー5名を指定し、効果的な活用方法を実践し、活用方法を他の先生方にも広める。 ①各教科の授業内容を共有し、教科間で授業連携ができる環境を整える。また、評価の基準等について、生徒に周知する方法を工夫する。 ②各学年に基本・発展のレベル分けをした週末課題を提供する。 ②生徒の学習量アンケートを総合的に分析し、学習指導の改善に役立てる。 ②朝学習を継続的に全学年で実施し、学習する習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。 ②朝学習や週末課題について、内容を精査し、朝学習→授業→週末課題が連動する統一的な仕組みを構築する。	①プロジェクト、タブレットの利用頻度が上がったか。その上で生徒が授業に主体的に取り組めたか。 ①教科間で授業内容の共有がなされたか。評価基準などについての情報を生徒に伝えることができたか。 ②定期的・継続的に課題を提供し、生徒の家庭学習を促すことができたか。 ②学習量の分析により、学習指導の改善を行うことができたか。 ②朝学習を学校全体で取り組み、全生徒が取り組んでいたか。また、学期末まとめテストの得点が向上してきたか。 ②効率的、効果的に朝学習・授業・週末課題が連動する学びの仕組みが構築できたか。			次年度への課題と改善策
2	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導計画を見直し、「入れる」進路先から「入りたい」進路先へとの意識が生徒・教職員間でも浸透してきた。ポートフォリオを蓄積しながら、生徒の実態を把握し、進路満足度を高める進路指導を実践していきたい。 キャリア教育の観点から国際交流を充実させ、国際社会にも目を向けさせたい。台湾への修学旅行、オーストラリアへの短期研修を予定しているため、異文化理解を促進し、国際社会に関心を持つ生徒をさらに育成していきたい。 	①進路満足度を向上できたか ②国際理解・異文化理解を促せたか	①1学年は様々な生き方を学び、望ましい職業観を身につける。2学年では模擬授業を通して希望進路先の意識付けを行うとともに、分野別ガイダンスや進路補習を行う。さらに3学年では、5分野別ガイダンス計8回を実施し、生徒各自の進路決定を促す。 ②姉妹校である台湾・丹鳳高級中学への修学旅行を中心とした国際交流を発展・継承させるとともに、オーストラリア・メリーボロー州立高校との本格的な交流を展開することで生徒の国際理解や異文化理解を深めさせる。	①3学年の進路決定率を少しでも引き上げられたか(96%以上)。また分野別に細やかでかつ適切な指導で、生徒一人一人が満足いく進路決定に繋がられたか(進路満足度80%以上)。 ②生徒が世界を身近に感じながら、自らの視野を広めることができたか。外国の文化に対する理解を深めることができたか。外国の生徒たちとの交流、ホームステイ等をおして多文化共生のための素養を育めたか。国際交流の経験を通して、生徒自らの進路実現に向かう姿勢に変容が認められたか。			
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事などは生徒会の生徒を中心に主体的に行動できるようになってきたが、全体的には不十分である。行事の見直し・改善、委員会活動の活性化を含め、生徒の主体性を育てたい。 部活動は活動の適正化・魅力化を推進し、活動方針について保護者に理解を求めながら、生徒の心身の成長を図りたい。 	①生徒の主体性・協調性を向上できたか ②部活動・生徒会活動の活性化・魅力化は図られたか	①挨拶運動や地域ボランティアの実施など、活力ある学校を目指した各種委員会の活動内容を生徒たちに企画運営させ、主体性と協調性の向上を図る。 ②全職員で「面倒見のよい部活動」の意思統一を図り、部活動未加入者削減に取り組むとともに活動場所や施設設備の確保、活動時間や週当たりの活動日の適正化を図る。また、生徒会主催行事に多くの委員会、部活動の生徒も運営に関わる機会を設けることで生徒会活動の活性化を図る。	①各行事後にアンケート(生徒と教職員)を実施し、委員会の生徒が運営に関わる機会を設けられたか。改善点やアンケート意見の内容を検討し、生徒が主体的で積極的に参加、活動できる行事を企画、運営できたか。 ②部活動の未加入者は減少したか。部活動や生徒会活動の活性化は図られたか。また、学期ごとに行われるアンケートの中に部活動等に関する質問項目を入れて調査を行い、学校生活満足度を図る。			
4	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動では、昨年度一定の方向性が見えた。今年度は地域との連携をさらに図り、生徒の探究力の向上に努める。 保護者また中学生の本校への訪問の機会が少ない。学校公開を魅力あるものにし、外部への情報発信を定期的に行い、多くの方に学校を覗いてもらい、活性化していきたい。特にホームページによる情報発信を積極的に実施していきたい。 	①探究活動を推進できたか ②外部へ向けて情報発信の量を増やすことができたか	①1学年では、「身近な地域」を対象として探究活動の技法を習得する。2学年では修学旅行と併せて、様々な情報を収集し、「国際理解」をより充実したものとする。3学年では、地域の様々な諸問題の中から課題を見つけ、「地域創生」等に関するテーマで探究活動を行う。 ②保護者に対して、ホームページやメールシステムなどのツールを活用し、公開授業、保護者会などの情報量を増やす。学校ホームページをリニューアルし、効率的・効果的に情報提供できるようにする。紙面による保護者への通知をホームページやメールシステムを活用したものに更新していく。PTA総会や理事会を通じて、校内における教育活動の情報提供を積極的に行う。	①実施計画に基づき、探究活動を行うことができたか。地域と連携を図り、探究活動の結果を明示することができたか。課題意識を明確にもち、課題を深く掘り下げて調べ、解決する力が育成できたか。 ②本校ホームページのアクセス件数が増えたか。メールシステムを利用した情報提供の回数が増えたか。PTA総会や理事会の教職員の参加人数が増え、多くの情報を提供できたか。			

学 校 関 係 者 評 価			
実施日	平成	年	月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等			